

妖魔との戦いの最中、謎の光に包まれた…
気づくとそこは見知らぬ場所
地球ではなく異世界とやらに飛ばされてしまったらしい

シノビの術は使えなかったがシノビ転身は使用する事ができた
だが…それは普段のシノビ装束ではなく
この世界特有の戦闘装束に変わっていた

慣れない戦闘スタイルだが元の世界に戻るために
生き延びなければならぬ…のだが…

「オレ達を討伐するために雇われた
傭兵だと思ったら娼婦だったとはなあ…w」

「うへへっ、こいつは上玉だぜ
こんなデケエ乳した綺麗な女見たことがねえ」

「くっ…」

このような奴らに遅れを取るとは…
慣れない戦闘スタイルに加え、普段の力がでないっ…

「やめっ…おおおっ♡」

「おらおら「イヤン」感じておるぞ
とんだ変態だな
本当に娼婦として俺達の「ニ」をたまんじやねえかW」

「おっ…スツゲエ締めり
コイツは娼婦の穴じゃねえよ…
鍛えた女のマ○コだあW」

「本当ですか親分？
オレが見つけたんですから
次オレに使わせてくださいよ」

下から容赦なく男が突き上げる
頭の天辺まで貫かれるような衝撃に声が止まらない

「おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡」

「お前ももっとデカ乳揉んでやれ
揉むとマ○が締まって腰も動くから最高なんだ…」

「へへっ…言われなくても
こんなデカ乳眼の前でしたら
揉まねえのはもったいないね…」

「スケベな勃起乳首もお仕置きしてやらねえとな」

「おらっ、射精すぞ！」

[illegible]

子宮^{ナカ}につ…♡あぁっ…抜きたいのに腰が動かんっ♡
熱いっ♡
ドクドクと脈打ってワミの子宮^{ナカ}につ♡♡♡♡♡

「おおおっ……」このマ○コ搾り取ってきやがる
こいつは売り飛ばすより
態度次第でオレの女にしてやるのも悪くねえ……」

「あづ♡♡♡あづあづ♡♡♡
あゝあゝあゝ♡♡♡♡♡♡♡♡
イグツ♡イグツイグツイグツ♡♡♡♡♡♡」

「おっすっげ
乳首とクリトリス捻り上げると潮吹くぜっW」

「囲まれて身動き一つできんっ…♡
くっ、乳首もクリトリスも擦られてっ♡♡♡

いぐううっ♡♡♡熱いっ♡♡♡
マ〇コが熱くて壊れてしまっ♡♡♡♡♡

はっ♡はっ♡
意識を保っただけで精一杯じゃっ♡♡♡

「なんやねんオレの肉便器^オになる決意はしめたわい」

「だっ…誰がっ…貴様らのようになっ…
男のモノになどなるものかっ…」

「くく…さう思うたぜw
まあコイツの使い時だろっ」

そう言う男が瓶を取り出した
ドロリとした液体が下腹部にかけられる
液体は身体に染み込むかのように消え
模様が浮かび上がる…

なっ…なんじゃ…
下腹部が熱いっ！
び、媚薬？

「コイツに耐えて
理性が残ってたらいいなあ…w」

男の肉棒が動く
なんてことのない動作
ただ膣壁を擦る摩擦が鮮明に感じ取れる

「おおおおおづ♡♡♡♡♡」

「おおあづ♡♡♡
おんおおおづ♡♡♡
おおおおおづ♡♡♡」

「速攻で壊れたか？
さっきとは段違いだろう
体中の感度が跳ね上がったんだ…」

「慣れるまでは全集中の「なんでも」で触れただけで
イッちゃいちゃうくらい敏感になっちゃうからな」

容赦なく体中を男たちに弄られる…
謎の媚薬？で感度が上がったことなどお構いなしに
乳肉を乳首をクリトリスを…敏感な部分を執拗に責められる

顔に肉棒を押し付けられるだけでイッちゃってしまっ
汗臭い雄の匂いが堪らなく愛おしい…

なんじゃっ♡♡どうなっておる♡♡♡
頭がぐちゃぐちゃなのにつ♡♡♡
鮮明に気持ちいいことだけがわかるっ♡♡♡

もっと♡もっと♡♡♡
マ○ン気持ちよくして欲しい♡♡♡

男の肉棒がドクンと脈打つ
鋭敏になった感覚が射精が近いと知らせてくる…
身体が…精液を欲してるのを感じる

くろっ♡精子くるっ♡♡♡

「ぶぶ♡♡♡ぶぶ♡♡♡ぶぶ♡♡♡
んぶぶぶぶぶぶぶぶぶ♡♡♡

「ほっ…♡♡ほおおっ…♡♡♡♡」

身体が小刻みに痙攣する…
意識は朦朧とするが気持ち良かったことだけはわかる

男たちに囲まれて下腹部に刻まれた模様が
怪しく光浮かび上がる…

「しっかり刻まれたなあ…w
これで奴隷契約完了だな」

使われたアイテムは魔族と契約をする希少アイテム
契約相手はサキュバス
人の身では得られない快楽と引き換えに
その身を使い精液を提供する奴隷となりはてる

魔族契約の品は禁忌とされ裏ルートで取引される
特にサキュバスとの契約アイテムは
極上の性奴隷を生み出すとされ高値で取引される…

サキュバスにとって男性の精液は生きる糧そのもの…
契約相手にとっては極上の媚薬へと早変わりする
その身に精液を浴びるだけで…いや匂いを嗅ぐだけで
性欲への飢えが加速する…

精液が媚薬の役割を果たすことを知っており
おびただしい量の精液がその肢体にぶち撒けられる

すでに抵抗はない…力尽きたのではない
身体が幸福に包まれて動く気力すらわからないのだ…

ただ無意識に男に媚びるよう
腰だけが蠢く…

代わる代わる犯され続けた……
むせ返るような精液の匂いに包まれ
顔すら見えなくなるほどの精液溜まりを作っていた……

下腹部に刻まれた模様は輝きを失い黒く淀む……
子を身籠った証だ
だが産まれてくることはない……
全てはサキユバスへの供物とされる























